

第 56 回建築士会全国大会 しまね大会紹介

2) 島根の近世建築 2 津和野

津和野は島根県の西部にある山の中の町で、しばしば山口県と間違えられます。近世の藩主は亀井氏ですが、亀井氏は尼子とも関係が深く、もとは鹿野町にいたものが津和野に移封されました。中世には海外とも貿易をしていた藩です。

町は元祖小京都的な乗りで観光地化し、近世の武家屋敷遺構と町屋遺構が連続したまちなみの

中に残っています。しかし、一方でまちなみの裏側では、かつての家老屋敷の敷地を道路や線路が分断するというような、文化財を破壊するような行為も行われていました。先般、

重要伝統的建造物群保存地域に認定され、これ

を契機として、破壊された文化財景観の復活や既存施設の整備をさらに進めていこうとしているところです。

観光の見せ場の一つは旧藩校養老館です。嘉永 6 年（1853）に元あった場所から改めて建設された藩校です。現在残っているのは一

部ですが、近世の遺構がそのままの貴重なものです。表の水路には鯉が丸々と太り、観光客にすり寄っています。多胡家は筆頭家老を務めた家ですが、3 軒間口の立派な

薬医門です。両脇に物見と呼ばれる番所を

備えています。主屋については一部古い

ものが残っていますが未整備です。この辺りは殿町になります。他に大岡家老家の門もあります。敷地内は明治時代に郡役場として建てられ今も町役場として

使っている建物があります。武家地の手前に町屋が並んでいますが、ここにも近世からの老舗や建物がいくつか並び、風情を醸し出しています。



藩校 養老館



藩校前の水路



殿町のまちなみ



多胡家老家門



大岡家老家門



町屋のまちなみ



財閥家



果心庵



海老屋